

## 礼文島

志村 良知

礼文島は、北海道最北の日本海沖にあり、稚内から船で二時間ほどかかる。

その日の天候は決して期待できるものではなく、予報は「東の風13m、気温10度、時々小雨」

四年間住んで北海道は極めた、と自称する友人からの、礼文島一日観光ならガイド付きハイヤーを雇え、という助言に従って予約しておいた車が香深港のフェリー波止場で待っていた。ドライバー兼ガイドは三〇代のM君。京都生まれ、沖縄が本拠のガイド業だが夏の間は礼文島が仕事場だという。話し方も物腰も柔らかい好青年である。

まず、桃岩展望台に向かう、狭い道を登り、駐車場に車を置いて歩く。オホーツク海からの東風が雨混じりで吹き付けてくる。こちらの装備は5月ごろの箱根で多少の雨風には耐えられる、という程度なので堪える。しかし、それを補ってくれたのはM君のガイドだった。どの位置にどんな花が咲いているか、本土やアルプスの近隣種とどう違うか、どの株が盛り過ぎか満開か蕾かを記憶していてセンチ単位で指差してくれる。そのガイドぶりは全島どこに行っても変わらず、花期の最後の野生のレブンアツモリソウ、咲き始めのエゾスカシユリも見せてくれた。花は遠かったり風に揺れたりで難しいが、風の息に合わせてエイヤとシャッターを切る。

島の最北端はスコトン岬という妙な名前で「日本最北限の地」という碑が立っている。以前は最北端であったが、宗谷岬側から抗議が来て最北限に変えたのだという。ヒューツという高い不気味な音で風に電線が鳴るのを聞きながら、遊歩道を吹き飛ばされないように命懸けで先端まで行き写真を撮り、また命懸けで戻る。最北限と看板があるトイレを借用する。

M君によると、ここの星空は素晴らしくそれを目当ての人達の民宿もあるという。

今年はウニが絶望的な不漁で超々高価という事だったが、今ここでウニを食わないわけにはいかない。えいっと跳び下りた清水の舞台の下でのウニ丼はまさにとろける美味であった。

スコトンと言ふ名の岬夏寒し 良知

(2024.Jun.23)